

令和 5 年度学校評価報告書

令和 6 年 3 月 25 日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌平岡高等学校長 水 澤 弘 幸

次のとおり令和 5 年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

「将来を見据え、現状を踏まえ、行動を起こす」平岡高生の育成に向けて、①目的・目標の明確化、②情報共有、③意見交換、④重点化と順位付け、⑤業務分担を行い、組織的・計画的・継続的な生徒支援体制を教職員一丸となって構築する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	- 魅力ある「わかる」授業の実践が急務である。 - 家庭学習の習慣づけを促す働きかけ（提出すべき課題や宿題の設定など）が不足している。	保護者や地域住民が抱く本校の姿は、進学校である。AIにより解答を得られる時代にあっても、自ら考え、思考を深めるような学習活動を展開し、国公立大学への進学をはじめ、生徒の進路希望を叶える学校であって欲しい。
改善方策	- 総合的な探究の時間との連係を含め、身につけた知識や技能を他の科目等でも発揮できる学習活動を計画・実施する。 - 家庭学習を促す課題の設定など、生徒が主体的に取り組む学習活動を実施する。また、通信などを通して保護者にも発信し、学校の取組内容を周知する。	
生徒指導	- 日常的な身だしなみの指導の成果に対して評価が下がっている。 - いじめ調査で「いやな思いをしている」と回答した生徒に対して、事実の確認を行い、継続的な指導に取り組む必要がある。	いじめのアンケート結果等をもとに委員会が実施されていることは評価すべきことである。引き続き、生徒が持つ感覚と教員の持つ感覚には差があることを認識し、対応していくことに期待する。
改善方策	- 今年度同様、時代の趨勢や生徒・保護者の意見を取り入れながら、校則の見直しに努める。 - いじめに関しては、アンケートに回答し、声をあげてくれる生徒の思いをしっかりと受け止め、事実の確認とその後の状況の把握など、一時的なものにとどまらない指導を継続する。	
進路指導	- 高校卒業後の職業等を見据えたキャリア教育活動が不足している。 - 講習への参加や模擬試験の受験を促進する働きかけに力を入れる必要がある。	落ち着いた校風を生かし、多様化する進路希望に対応できる体制を作って欲しい。
改善方策	進路ガイダンス等を通じ、生徒や保護者が進路について考える働きかけを実施しているが、情報が行き渡らないのが課題である。実施後の周知なども含め、学校全体の動きの見える化を進める。	
健康安全指導	- 環境美化や生命の尊さ、薬物乱用防止などをテーマに各種講演会、また一日防災学校を今年度初めて実施した。 - 教育相談や特別支援という視点から、委員会の活動を充実させ、定期開催に努め、生徒理解にあたった。	- 一日防災学校の実施は、地域の中の学校という点で見て、評価できる。地域の実情を踏まえ、学校も適宜協力できる体制を作って欲しい。 - オンライン授業の実施など、生徒支援のため、学校としてできることを継続実施して欲しい。
改善方策	- アンケートの質問項目のリニューアルするなど、生徒の悩みを聞く機会をさらに増やし、信頼される学校づくりに努める。 - 地域社会や町内会とのつながりを一層強める教育活動を計画・実施する。	
公表方法	学校HP、学校便り等に掲載する。	

3 添付資料

- (1) 令和 5 年度学校評価（自己評価）集計結果
- (2) 令和 5 年度学校関係者評価（保護者）集計結果